

歴史人物誌

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は山田史談会長の佐藤仁志さん（豊間根・74）です。

昭和8年3月3日午前2時30分ころ、強い地震（震度7の強震）があり、交換台が崩れんばかりに揺れ、電灯が消えた。山田郵便局には女子交換手3人が宿直勤務していた。大槌郵便局に問い合わせると「町では津波が来たときわいでいる」とのこと。津波襲来となると瞬刻の

けしてコードを差し込み、1番から順次「津波です。急いで避難してください」と電話をかけ始めた。津波の襲来は目の前に迫っており、恐怖と危機感におののきながら136戸の電話加入者に対し無我夢中で電話し、船越村役場を最後に20分位でかけ終えた。「町民はこれを聞いて龍昌寺、八幡神社境内、役場等山の手高台方面へどんどん逃げ出したので死者を少なくし

の浜及び大浦部落に特設の私設電話で其旨を急報した後、付近民家へ避難するよう警告を与え、自分は最後に避難した。同部落が百八十余戸を流出したのに死者は僅か1名に止まったのは、金沢君の機敏な行動に依るものと賞讃された（山田町の津波誌Ⅱ 岩手県昭和震災誌Ⅱ）

昭和8年三陸大津波襲来 危機を救った交換手の機転

得た。大槌局並びに山田郵便局交換手の機転又偉大なものがある」と報じている。（山田町の津波誌Ⅱ 岩手日報Ⅱ）

人々は暗闇の中、不安焦燥恐怖の寒い一夜を明かしたという。

「船越村漁業組合の仕丁金沢清吉（22）は、前須賀の事務所に就寝中、山田郵便局から『津波が来る』という電話があり、直ちに田

津波による住家の流失と死者・行方不明者は、船越村205戸（死者4人・行方不明者1人）、織笠村1戸（死者1人・行方不明者3人）、山田町191戸（死者7人・行方不明者1人）、大沢村38戸（死者1人）。合計で流失435戸、死者は13人、行方不明者は5人である。（山田町の津波誌Ⅱ）

「震災に際し海嘯来襲の報に接し、一身の危険を顧みず、急を警察官憲および電話加入者に通報し、町民の避難を速やかならしめた」として、山田郵便局事務員沼崎ツイ（21）、内館アキ（20）、湊チヤ（19）の3人に対し、通信大臣は褒状を授与した。



海蔵寺境内にある三陸大海嘯死者慰霊塔



町中央公民館脇にある西塔幸子の歌碑

歴史講演会

表現と救済

下山清と西塔幸子

薄幸の歌人といわれた西塔幸子と、29年の生涯の間に多くの短歌を残した下山清。山田の人々との関わりが深い2人の歌人の生涯とその作品について学びます。入場は無料です。どうぞご来場ください。
◇日時 12月18日(金) 午後2時～
◇場所 町中央公民館小ホール
◇講師 赤沢義昭さん（県立博物館友の会会長）
◆問い合わせ 町生涯学習課文化担当（☎82-3111 内線624）へどうぞ。